

～ 法政大学哲学科が日本初の試み ～

海外研修を伴う「国際哲学特講」を 今年度より開講します！

異文化の中に身を置いて、異文化を論じる

海外研修を伴う哲学特講、その名も「国際哲学特講」が2011年度より開講します。これは、89年の歴史を誇る哲学科で初めての、また他大学哲学科にも例を見ない試みです。海外研修では、独仏国境のアルザスに1週間滞在し、歴史文化遺産の見学、地元レストランでの食事等を通じて異文化を体験しつつ、フランスとドイツの大学生との合同ゼミで、異文化を論じ考えていきます。

POINT フランスの古都コルマル近郊に宿泊
アルザス欧州日本学研究所 (CEEJA) を拠点に生活



宿泊先のCEEJA



ディナーは地元レストランで、フルコースを堪能



POINT 現地大学生との合同ゼミ
ストラスブール大学(フランス)、ハイデルベルグ大学(ドイツ)でワークショップを実施



過去のワークショップの様子



ワークショップ後は一緒に街を散策



POINT ヨーロッパを象徴する文化に触れる
ストラスブール旧市街など、世界遺産を回る



ハイデルベルグ市の広場(後ろには「ハイデルベルグ城」)



「ノートルダム大聖堂」外観 (ストラスブール市内)

履修内容、単位取得要件などは裏面を参照ください。

科目名称：国際哲学特講

担当教員：安孫子 信

国際哲学特講は、海外研修を伴う新しい形の哲学特講です。＜異文化理解＞という哲学の古くからの問題を、教室でテキストを中心に学んでだけでなく、最終的には、実際に海外(フランス・ドイツ)に出かけ、異文化との直の接触を通して学びます。

1週間の海外研修の期間中にストラスブール大学(フランス)、またハイデルベルグ大学(ドイツ)で、それぞれの大学の学生たちと＜異文化理解＞をテーマに合同ゼミを行います。それを成功させることが、この特講の狭い意味での到達目標です。

両大学の日本語学科の学生たちとの合同ゼミです。交流は日本語で行います。

また、ゼミの合間をぬって、滞在地であるフランス・アルザス地方の様々なモニュメントを見学し、食を始めとする生活文化に触れます。ドイツと国境を接し、中世からヨーロッパの中心であり続けてきたアルザスを身をもって体験することで、ヨーロッパという言葉に新たな意味づけを獲得していくこと、それがこの特講のより広い意味での到達目標となります。

【授業の概要と方法】

国内での授業

9月から1月の通常の授業期間には、教室で通常の形での授業を行います。

ただそれは、学期の最後に行う海外での合同ゼミに備えてのものです。

＜異文化理解＞にかかわる文献に幅広く当たり、ゼミ発表を準備していくことが課題です。

部分的にでも毎回一つの文献を扱い、当番の報告に基づいて、全員で議論しながら読み進みます。

海外での研修

2月に1週間、アルザスの古都コルマル近郊のアルザス欧州日本学研究所(CEEJA)に滞在し、そこを拠点にしてハイデルベルグとストラスブールにそれぞれ一日移動し両大学で合同ゼミを行います。またその他の日には、アルザスの文化と歴史と現在に触れる多方面での見学を行います。

注意事項

- ・この特講での単位取得には海外研修参加が必須です。
- ・ですから、長時間の飛行機での移動が健康上可能であること
- ・また航空券代金を含む参加費を負担することが可能であることが受講の条件となります。
- ・参加費は現在の為替レート、航空券代の相場を前提にして、旅費・滞在費すべてを含めて16万円ほどを予定しています。
- ・なおその内の4分の1(上限5万円)については大学から一人一人に補助が出る事が決定しています。
- ・**これは特講ですので2年生～4年生まで受講可能です。ただ、他の特講とは違って、複数回の受講はできません。**
- ・受講者数は20名を上限とします。万が一それ以上の受講希望者がいた場合には、受講希望者に前もって提出してもらう「受講希望理由」の作文と、過年度の成績(GPA)とで選抜を行います。

【授業計画】

後期だけの授業です

＜実施回 / テーマ / 内容＞

- 01、事前授業の概要の説明 15回事前授業の流れと、それが2月の海外研修とどうつながるかの説明
- 02、「外に出るということ」 大前研一・柳井正『この国を出よ』を批判的に読む
(以下を含めて書名は仮です。また授業で扱うのは、概ね各書の一部です)
- 03、「外に出るということ」 小田実『何でも見てやろう』を批判的に読む
- 04、「外に出るということ」 福沢諭吉『福翁自伝』を批判的に読む
- 05、「外に伝えるということ」 大江健三郎『あいまいな日本の私』を批判的に読む
- 06、「外に伝えるということ」 川端康成『美しい日本の私』を批判的に読む
- 07、「外に伝えるということ」 新渡戸稲造『武士道』を批判的に読む
- 08、「外から見られるということ」 アメリー・ノートン『恐れ慄いて』を批判的に読む
- 09、「外から見られるということ」 リービ秀雄『星条旗の聞こえない部屋』を批判的に読む
- 10、「外から見られるということ」 ルース・ベネディクト『菊と刀』を批判的に読む
- 11、「内外の壁の乗り越え」 姜尚中・森崇博『ナショナリズムの克服』を批判的に読む
- 12、「内外の壁の乗り越え」 テッサ・モーリス＝スズキ『批判的想像力のために』を批判的に読む
- 13、「内外の壁の乗り越え」 西川長夫『国境の越え方』を批判的に読む
- 14、「あらためて、外に出るということ」 アルザスの歴史と文化を学びます
- 15、「あらためて、外に出るということ」 アルザスの現在を学びます

【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

毎回扱うテキストに事前に目を通してきてもらいます。

また各回に当番を決めて、その人には踏み込んだ読解をしてきてもらい、それをレジュメ発表してもらいます。

【テキスト】

授業計画中にまだ仮のものですが挙げました。比較的廉価で簡単に手に入るものについては各人に用意してもらいます。それ以外のものについてはコピーを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価基準】

学期内の通常の教室授業での出席や発表が5割、海外研修への参加とそこでの合同ゼミでの発表や発言が5割で評価します。